

## スキーの思い出

〇期 田村 昭夫

4歳からスキーを始めた。どんな吹雪の日でも、スキーをやっている変わったガキだったらしい。国民学校（小学校）に入ってから同級生で一番の急斜面滑降の名人となった。私の滑った跡はすぐわかった。片足で滑ったと思う様な一直線を新雪につけるのは、私以外には出来ない技だった。

中学に進学して、全会津のスキー大会に滑降で出場した。しかし、曲がることの嫌いな私は、真直ぐ滑りコースから外れ、崖から落ちて失格してしまった。

高校に行ってから、回転に挑戦しだした。しかし、シュテムボーゲンから卒業出来なかった。大学に入ってから一人でもくもくとパラレルに挑戦した。10年かかって、やっとパラレルスキーへの難関を突破することが出来た。就職してからは、会社の同僚達に指導出来るくらいになった時は、嬉しかった。

40歳になった時、あこがれのスイスで年を越した。ツェルマツトで、朝焼けのマッターホルンを見て涙を流したことを思い出す。グリンデンワルトのスキー場では、ガイドのすぐ後を滑り、彼のシュプールをなぞれたことは喜びだった。

会津に帰ってから、磐梯リゾートスキー場で、有名なトニー・ザイラーと一緒に滑れたのも嬉しかった。彼は、私の旧式なスキー用具を褒めてくれた。(注)

この旧式スキー用具は、野沢温泉「ふるさと」のアルバイト学生によって葬り去られた。この時、私の栄光あるスキー人生も終わったのだった。

注：トニー・ザイラーは、コルチナダンペッツオの冬季オリンピック 三冠王である。

“Könnten Sie mir bitte das Skifahren beibringen” (スキーを教えてください)  
私がザイラーに話しかけた文句です。



(2001年 第4回スキー合宿 旧式スキー姿でシーハイル!!)